



平成30年度
事業計画(案)

社会福祉法人 容風会
おきなのだ

『“新”おきなof杜』～伝える。考える。動く。～

■運営方針

『“新”おきなof杜』のスタートにあたり、全ての業務の見直し(仕事の棚卸し)を行い、業務改善に取り組みます。

委員会・会議・行事等についても同様に、指針・実施方法・関係性を整理します。

また、おきなof杜は、地元一番の貢献施設 = “地元のMVP”を目指します。
そのために、次の3つのチカラをつけます。

- ①『伝える力』:おきなof杜の魅力や介護サービス情報を正確に的確に『伝える力』を身につけます。
- ②『考える力』:情報に敏感になり、集めた情報を活かすため、『考える力』を身につけます。
- ③『動く力』:スタッフみんなが自信を持って活動する『動く力』を発揮します。

経営面では、

- ・業務の効率化・省力化、経費削減を実行し、大規模改修等の実施がスムーズに行われるよう、健全経営を目指します。
- ・求人ならびに集客力を強化するため、SNSの活用等、広報PR力を高め、法人の魅力をより多く伝えます。
- ・スタッフに対する貢献度と地元貢献度の高い法人を目指します。

社会福祉法人 容風会
理事長 金丸 正勝

『“新”おきなof杜』～伝える。考える。動く。～

■そのための「目標」と「約束」

目標1 『伝える力』を身につける。

- 約束①: 介護保険制度の改定について、住民・利用者・家族が困らないようにしっかりと伝えます。
- 約束②: 地元地域に対して、介護サービスについて・おきなof杜についてしっかりと伝えます。(校区社協等との連携強化)
- 約束③: 行事予定・報告をはじめ、情報を効果的に発信するため、「タイムリー&スピーディ」を心掛け、実行します。

目標2 『考える力』を身につける。

- 約束①: デイサービスに求められる、「在宅における自立支援」を達成するために何をすべきかを常に考えます。
- 約束②: 特養・ショートで「寝たきり・座らせっぱなし」にしない。「廃用症候群」を起こさせません。
- 約束③: 一人一人が一人前のスタッフとして活躍できるよう、委員会・学習会を充実させていきます。

目標3 『動く力』を身につける。

- 約束①: 介護のプロとして自信をもって活動するため、「ノーリフトケア」の技術をスタッフ全員が身につけるよう、毎月「ノーリフトケア練習会」を実施します。今後は、「ノーリフトケア」をおきなof杜の介護技術の基本とします。
- 約束②: スタッフ一人一人が、お互いのためにすすんで行動する「思いやり行動」をたくさん増やし、「働きたくなる職場」をスタッフ自らが創ります。
- 約束③: 地域のために、フットワーク良く動きます。地域の健康を守るため、介護教室・介護相談・健康教室・体育塾等を積極的に定期的に開催します。(事業化を目指す)

2018スローガン

「寝たきり・座らせっぱなし」にしない。「廃用症候群」を起こさせません。

〈運営方針〉

平成28年度から「誤嚥性肺炎ゼロ」の取り組みを始め、口腔ケアの統一を図った結果、誤嚥性肺炎での入院者数は大きく減少し、誤嚥性肺炎以外の入院者数も減少傾向になっています。病気やケガで入院してベッド上や車椅子で安静にすることで、全身の筋肉をあまり動かさない状況が続くと、筋肉や関節、臓器の運動能力が低下します。自力で動いたり歩けるのに危ないからと言って車イスやおむつを使用すると、さらに身体を動かす機会が減ります。そういう状態が続くと身体機能は低下する一方になり、「廃用症候群」を進行させます。

平成30年度は、転倒・転落の事故や病気などで寝たきりになり廃用症候群にならないために、多職種連携して取り組んでいきます。

介護のプロとして自信をもって活動するため、「ノーリフトケア」の技術をスタッフ全員が身につけるように学習を繰り返し行っていきます。スタッフ全員で統一した介護をすることにより、「廃用症候群の予防」、「褥瘡ゼロ」、「事故ゼロ」を目指します。

スタッフ全員で「伝える力」「考える力」「動く力」をつけるために、多職種との情報交換や意見交換を行いながら、ユニットケアや業務全般の抜本的な見直しも行っていきます。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目 標
1 ノーリフトケアの技術をスタッフ全員が身につけます。

〈約束〉

- ① プロジェクトチームを中心に学習会を定期的に開催し技術を身につけます。
- ② 安全な介助で転倒・転落事故を防ぎ寝たきり・座らせっぱなしをなくします。
- ③ 住民様のできる機能を維持するために多職種連携して、生活リハビリ、レク、リハビリを計画して行います。

目 標
2 ユニットケアを確立し、業務内容全般を見直します。

〈約束〉

- ① 月1回学習会を行い「おきな の 杜」のユニットケア」ハンドブックを作成します。
- ② 24時間シートの記入方法や表記の統一を行います。
- ③ 今の業務内容や勤務体系を見直して残業の軽減を図ります。(スタッフ全員で意見を出し合う)

目 標
3 「伝える力」「考える力」「動く力」を身につけます。

〈約束〉

- ① リーダー会議の使命、目的を考え直し新たな目標を決めていきます。
- ② 各リーダーで担当を持ち、学習会の企画講義を行い「伝える力」を身につけます。
- ③ スタッフが意見を出しやすい環境をつくり、ユニット会議でしっかり議論して業務改善につなげていきます。

ショートステイ おきな杜別館

2018スローガン

「ショートステイは、どうあるべきか？」を問い直し、他の施設にない魅力的なショートステイを創り上げる。

<運営方針>

ショートステイおきな杜別館は、ここ数年「おもてなし」を目標に掲げて取り組んできましたが、利用者様の満足するおもてなしが実践できませんでした。行事企画やアクティビティの内容も不十分だったため、ショートステイに来て「何もすることがない」「楽しくない」との意見をいただいています。平成30年度は、「ショートステイは、どうあるべきか？」をユニットスタッフ、専門職で問い直し、他にはない魅力的なショートステイを創り上げることを大きな目標として取り組んでいきます。

ショートステイでは、「寝たきり、座らっぱなし」にさせないための、体操やレクリエーションを週単位で企画し実施します。そのために、スタッフ全員で企画を考えていきます。業務の内容や手順を見直し効率化を図り、レクリエーションや入浴時間の確保をしていきます。

介護のプロとして自信を持って活動するために、「ノーリフトケア」の技術をスタッフ全員が身につけるように学習を繰り返し行っていきます。統一した介護をすることにより、「廃用症候群の予防」、「事故ゼロ」を目指します。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1 ノーリフトケアの技術をスタッフ全員が身につけます。

<約束>

- ① プロジェクトチームを中心に学習会を定期的に開催し、技術を身につけます。
- ② 安全な介助で転倒・転落事故を防ぎ座らせっぱなしをなくします。
- ③ 利用者様のできる機能を維持するために、歩行訓練や健康体操などを計画して行います。

目標2 楽しい行事企画やアクティビティの提供を行います。

<約束>

- ① 脳トレ・健康体操は定例化し、利用者全員が参加できる企画を考えます。
- ② 「外出したい」希望にすぐ応じられるような『ちょこっと外出』を実施します。
- ③ 昭和の懐かしさが漂う設えや飾り付けを行い、季節感のある行事を計画して行ないます。

目標3 稼働率95%を目指します。

<約束>

- ① タイムリーに空室の情報や行事企画を発信し、空室を埋めていきます。
- ② 営業活動を行い、新規獲得に努めます。
- ③ 荷物チェックの簡素化を行い業務の効率化を図ると共に、忘れ物ゼロを目指します。

2018スローガン

新☆元気塾 病気に負けないもっと元気な元気塾

〈運営方針〉

高齢者人口の増加やニーズの多様化が進む中、今後さらに認知症高齢者の割合が高まっていく状況を踏まえ、認知症・中重度者・医療ニーズの高い方が安心してご利用いただける環境作り、医療と介護の連携がさらに求められてくると考えています。重度の要介護状態になっても、いつまでも住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができる様、医療と介護が一体的に提供される地域包括ケアの一端を担うことが元気塾の役割と考えています。そのために、日常生活の問題点を把握し、生活相談員・機能訓練指導員・看護職員・介護職員それぞれの職種が連携を強化し、利用者それぞれの出来る能力と、自宅環境に合わせた訓練を提案、実施し、「自分でやりたい」という意欲を実現するように支援します。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1 認知症のスペシャリストになります。

〈約束〉

- ① 外部研修等への参加により自己啓発に努めます。
- ② 効率的な時間の提供と環境作りに努めます。
- ③ 在宅介護に向けて家族の負担を減らせるよう家族へ介助方法の提案を行います。

目標2 在宅生活に向けて「自分でやりたいこと」を発見!

〈約束〉

- ① 職員全員で目的を認識しチームで提案・実施していきます。
- ② 日常生活の問題点を全員で把握し在宅生活にいきがいを生み出します。
- ③ 過介助をせず、出来る事を増やし自分でやりたい気持ちを引き出します。

目標3 連携強化!

〈約束〉

- ① ご利用者からの要望には迅速に対応し、情報共有を強化します。
- ② 他部署との連携を図り、問題解決に対応するチーム作りに努めます。
- ③ 定期的に地域の方をお招きし、連絡会を実施します。

2018スローガン

新☆文化村は一流のデイサービスを目指します。

〈運営方針〉

平成12年に介護保険制度が誕生し、介護に対する認識・家族のかたち・介護保険の財政・様々な社会の情勢の変化がありました。それに応じてデイサービスの役割・求められるものも大きく変わってきています。以前はご家族の介護負担軽減、レスパイトが主な目的でありました。現在は利用者様本人の生活を支える介護、歳を取っても、出来るだけ住み慣れた場所で地域の一員として過ごす事が出来るような地域包括ケアシステムが推進されています。そんな中、デイサービスは相談員、看護師、機能訓練指導員、介護職という高齢者の生活を支える専門職集団として大きな任務を任されています。それは、地域の高齢者が健康や身体機能を失わないこと。日々の暮らしの中でやりがいや生きがいをもって過ごす事。地域や家庭で様々なカタチの役割を持ち続ける事だと思います。文化村は在宅介護のスペシャリストとして、その方の在宅生活を支える一流のデイサービスを目指します。利用者様に過介護を行わず、自分でやりたいことを自分で行える、自由な在宅生活を送れること。それを一つの大きな目標として実現に向けて取り組んでいきます。また、ご利用者様が暮らされる地域の方へデイサービスをもっと知っていただき、関係づくりを行えるような発信も行います。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1 一流の提案を行います。

〈約束〉

- ① 過介護を行わず、自分でできることを増やす介護を学び、提案します。
- ② 健康や介護予防に関する情報の発信を行います。(わはは教室)
- ③ ご家庭の事情に応じた提供時間の提案を行います。(5～7時間)

目標2 一流のサービスの提供を行います。

〈約束〉

- ① 在宅生活に必要な一流の機能訓練を提案し、実施します。
- ② 生涯学習の場として、ご利用者様に応じた一流の活動を提供します。
- ③ 専門的知識に基づいた一流の対応力を身につけ、サービスの提供を行います。

目標3 連携力も一流を目指します。

〈約束〉

- ① 月に1回地域の方の招待日を設けます。
- ② 明るい挨拶、丁寧で臨機応変な対応で、一流の接遇を目指します。
- ③ ご家族・他事業所とのタイムリーな情報共有を行います。

2018スローガン

OKINA de ARUKUは成果を出す！結果を出す!!だいサービスを目指します。

<運営方針>

「OKINA de ARUKU」は、「地元を元気に!生活の基本は歩くことから!!」をコンセプトに歩行訓練に特化しただいサービスとして、平成29年8月にオープンしました。歩行を専門的に分析する、OKINA de PITを活用し、リハビリの前後を数値や画像で可視化しています。「何となく良くなった」ではなく、成果を数値で見える化することで、利用者様の意欲ややる気が継続し、楽しみながら自分の目標のため家族のために運動することができてきています。H30年度は、お一人お一人の、目標設定のお手伝いを丁寧に行い、さらに成果を求めます。成果を出す!結果を出す!!ことで、たくさんの方の自立が保て、生活に充実感、満足感が持てるようサポート致します。「歩きたい!」思いを「歩けた!」の喜びに。スタッフ全員で機能回復に向けて全力でサポート致します。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1 稼働率90%を目指します。

<約束>

- ① 登録者150名を確保します。
- ② 営業ツールの作成と効果的なPRを行います。
- ③ ご利用者・ご家族、ケアマネや行政との信頼関係をしっかり築き、ARUKUファンを増やします。

目標2 成果を出し、成果を求め、利用者もスタッフも、やる気と笑顔をいっぱいにします。

<約束>

- ① 目標設定をしっかりと行い、達成のための個別メニューを充実させます。
- ② 飽きない、満足感のある運動の提供とホームエクササイズの充足を図ります。
- ③ 外出企画を行い、数値の成果だけでなく、外出先でも成果を実感し、利用者やスタッフ間で喜びを共有します。

目標3 チーム力、発信力を高めま

<約束>

- ① 「伝える、考える、動く」力をつけ、最高・最強のチームになります。
- ② ご家族やケアマネへ定期的に成果の発表を行います。
- ③ 地域の方向けに、イベントの開催を行い、ARUKUをさらに発信します。

2018スローガン

“心” おきなのか ～在宅生活の心強い存在になります～

〈運営方針〉

総合事業(介護予防・日常生活支援総合事業)がスタートして1年が過ぎ、在宅でのサービスを利用している方が年々増加傾向にあります。平成30年度には介護保険の制度改正もおこなわれ、さらに他職種との連携を深め在宅での生活がより重視されるようになります。介護保険では対応出来ない事案については、生活サポートサービスと一体的なサービスを充実させ提案して行きます。登録ヘルパー以外で生活支援中心型の担い手の拡大や新たな人材確保を目指して発信して行きます。利用者一人ひとりが自分の居場所や自分のペースで、よりよい日常生活が送れるよう心に寄り添い、精神的な支えとなりながら信頼関係を築き、自立支援に向けて取り組んで行きます。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1 身体介護の技術を習得して在宅での自立支援に活かせるよう努めます。

目標2 安定した支援が継続できるようにスタッフの体制を強化します。

目標3 利用者・家族に一番近い存在となり、役立つ情報を伝えます。

〈約束〉

- ① 研修に参加し、月1回のミーティングで共有して行きます。
- ② 専門スタッフからのアドバイスを共有して行きます。
- ③ 個々のスキルアップを目指します。

〈約束〉

- ① 1件に複数のスタッフが対応できるようにします。
- ② 新たな人材確保に努めます。
- ③ 働きやすい職場づくりに努めます。

〈約束〉

- ① 傾聴し信頼関係を維持して行きます。
- ② 役立つ情報を共有します。
- ③ 地域との交流を深めて行きます。

2018スローガン

利用者様の思いを真摯に受け止め、利用者様の心に灯りを灯すケアマネジメントを遂行します。

<運営方針>

平成30年度においては、医療、介護のダブル制度改正が行われ、住まい・医療・介護予防・生活支援等が一体的に提供される地域包括ケアシステムを実現することが求められます。病院ではなく、在宅で終焉を迎える時代が近づいています。在宅で、どのように余生を過ごし、医療を受け、介護をしていくか、どの家庭でも起こりうる問題を解決することが必要です。家族と共に考え、介護保険制度を有効活用し自立した在宅生活を実現する事が、今後、ケアマネージャーの役割です。介護相談処としての居宅介護事業所の使命を果たし、利用者様、ご家族様の立場に寄り添ったマネジメントの遂行に切磋琢磨していきます。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1 おきなof杜に相談すると問題が解決できる、情報やサービスの活用方法を「伝えます」。

目標2 気持ちに寄り添い、利用者様、ご家族様が自立して歩む道を「考えます」。

目標3 地域への視野を深め、地域に貢献できる事業所であるよう「動きます」。

<約束>

- ① 介護サービス、社会支援、医療、地域の情報を伝え、支援の選択肢を広げます。
- ② 医療との連携をさらに強化し、在宅療養が円滑に進むよう支援を進めます。
- ③ おきなof杜の活動やサービスの活用をPRし、自事業利用へ貢献します。

<約束>

- ① 的確なアセスメントとニーズを把握し、思いをくみ取る、マネジメントを遂行します。
- ② 医療や、多職種との連携を図り、在宅での問題解決に努めます。
- ③ 地域で暮らしていくための、自立した支援を提案、遂行します。

<約束>

- ① 地域のニーズを把握し地域との情報共有に努めます。
- ② 地域での課題について、地域と共に考え問題の解決につなげます。
- ③ 地域包括ケアシステムを具体的に推し進め地域での存在を高めます。

2018スローガン

心に寄り添い、心から喜ばれるサービスを目指します。

<運営方針>

私達の事業所の役割は、ご利用者様とご家族様が、これまでの日常を少しでも継続できるよう、また、これからの毎日も安定した生活を送っていただけるよう支援していくことだと思っています。
それに一番必要なのは、「寄り添う気持ち」と「確かな技術」。その両方があるからこそ、みなさんの生活を本当の意味で支えていけるのだと考えます。依頼されたお困り事だけでなく、その他の環境、状況なども深く読み取りながら、その方らしい生き方を実現するお手伝いができるよう、積極的に働きかけ、きちんと・丁寧な支援に努めていきます。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1 確かな技術を提供できるよう、常にスキルアップに努めます。

<約束>

- ① 作業方法の改善策を常に考え、実践練習を通じ、技術を共有します。
- ② 依頼をお断りすることがないよう、知識を増やし、対応できるよう努めます。
- ③ 知識・技術の基本を見直し、土台をしっかりと固めます。

目標2 ご利用者様・ご家族様の気持ちにきちんと寄り添える支援に努めます。

<約束>

- ① コミュニケーション能力を高め、ご利用者様との心のつながりを強化します。
- ② 些細な事でも気づけるような、細かな目配り・心配りに努めます。
- ③ 接遇・マナーを見直して統一を図り、心から気持ち良いと思っただけのサービスを目指します。

目標3 地域との連携を強化していきます。

<約束>

- ① “ちょっとしたお困りごと対応力”で地域一番になります。
- ② 役立つ情報がすぐにお伝えできるよう、地域の情報収集に努めます。
- ③ 地域の方との交流を積極的に図り、絆を深めます。

2018スローガン

これからの法人経営に向けて、考えられることを前向きに取り組んでいきます。

〈運営方針〉

今年4月からの制度改定への対応、その上で監査指導に対する適切な業務監理や恒常的な人材不足解消のための対策を遅滞なく、タイムリーに進めていくと同時に、介護報酬に依らない新たな収入源の開発に向けて、法人全体の舵取り役の部署として新たな方向・方策を探っていかなければならないと考えています。
厳しい環境を乗り越え、生き残っていく、心身ともにスマートな「新 おきな の 杜」を築くため、これまでの慣習・方法や手順に囚われず、課題の解決・改善ができるようにしなければなりません。
そのために、常に情報収集しながら方策を練り、スマートな人材育成と業務監理に向けて手を抜くことなく前に進んでまいります。
先駆的な取り組みにもチャレンジ精神をもって実行していきたいと思います。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1 監査指導に適切に対応するため、率先して情報収集と制度を熟知していきます。

目標2 新しい事業開発を検討し、介護報酬に依らない収入源を確立していきます。

目標3 人材確保策として、外国人人材の雇用受け入れを慎重に進めていきます。

〈約束〉

- ① 新しい制度を熟知し、ミスのない業務を率先します。
- ② 常に、責任を持って、帳票監理を厳格に実行していきます。
- ③ 収入維持確保のため、加算を取得し、過誤のない請求監理をします。

〈約束〉

- ① 共生型サービスの開始にともない、受入体制を整えます。
- ② 生活支援事業立て直しのため、営業活動を始め、協力先との連携を進めます。
- ③ デイサービスの空き時間を使った地域福祉・健康サービス等、新しい収入源を開拓します。

〈約束〉

- ① 受け入れる外国人を迎える準備を滞りなく行います。
- ② 監理団体や行政との情報交換を密にし制度やルールを厳守します。
- ③ 外国人技能実習生の受け入れをスムーズに実行するため、情報収集を怠りません。

2018スローガン

チーム事務局は、「地元一番の貢献施設」を目指し、「伝え」・「考え」・「動き」ます。

〈運営方針〉

社会福祉法人はこれまで求められてきた公益性に加え、昨年行われた社会福祉法人改革により、事業運営における透明性とガバナンス・財務規律の強化が求められる時代になってきました。また今年4月に診療報酬・介護報酬の同時改定があり、平成27年度の介護報酬改定ではマイナス改定、そして今回の介護報酬改定ではプラス改定(改定率+0.54%)と謳われていますが、事業種別によっては収益が減少することも考えられます。そのため、今後の地域の福祉ニーズの変化を見据えた事業の展開、現在展開している事業の継続性を担保とするための資産の維持管理、財務計画及び人事管理等について策定し、経営基盤の安定を図りながら地域の中核的な福祉施設として地域の皆様方にとって「地元一番の貢献施設」を目指します。

そのための『3つの目標』と『3つの約束』

目標1 法人の魅力や介護サービス情報をタイムリーかつスピーディーに「伝えます」

〈約束〉

- ① 情報発信力を高めホームページやSNS等広報活動の充実を図ります。
- ② ボランティアの受け入れを積極的に行いマンパワーの拡大を図ります。
- ③ 法人の魅力や介護サービス情報を発信し、利用者及び多様な人材(財)の獲得を目指します。

目標2 業務の効率化・省力化・経費削減を「考えます」

〈約束〉

- ① 消耗品、委託費等 全ての経費を精査しコスト削減を図ります。
- ② 関係部署との連携を強化し、計画的な予算執行を進めていきます。
- ③ 建物設備の整備・備品の管理を徹底します。水道高熱費のコストを見える化し、節約に取り組めます。

目標3 スタッフ一人一人が仲間とともに長く歩み続けられる職場創りに「動きます」

〈約束〉

- ① 各種委員会・学習会の充実を図り社会人としての自律を支援します。
- ② 仲間を大切にする(仲間を思いやる)魅力ある職場環境を創ります。
- ③ 再構築した人事考課制度の運用及び定着を図り、スタッフの士気と満足度が向上するように取り組んでいきます。